

浦安市立美浜北小学校

1 学校の紹介

(1) 学級数・児童数（令和元年12月現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学級数	1	2	2	2	2	2
児童数	26	38	35	52	45	46

(2) 学校の教育目標と教育活動

○ 学校の教育目標

自らの課題や目標に全力で取り組む子どもの育成
～豊かな学び、豊かな学校生活の創造～

「読書活動の充実」については、基礎的、基本的な学力の定着を図るため、教科学習を中心に、様々な活動で読書を位置付けている。

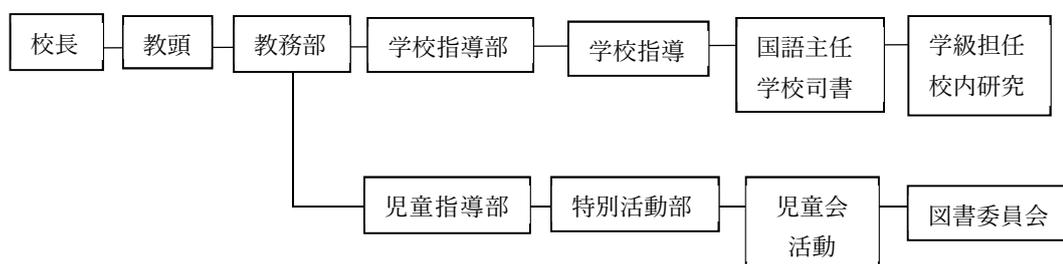
2 自校の図書館の現状

○ 蔵書数 平成30年度末 12,718冊

○ 貸出冊数 平成30年度 1人78.03冊

3 司書教諭及び図書主任等の教員の取組

(1) 校内組織と主な役割



(2) 子供や教員に対する支援

ア 図書館の運営に関わること

学校司書は蔵書点検や新刊図書の購入、学校図書館壁面の掲示物作成、蔵書の管理等を行っている。また、年度初めには、全学年に学校図書館利用のガイダンスを行っている。

イ 読書推進活動に関すること

○ 図書委員会の活動

(年間を通した取組)

- ・本の整理、修繕
- ・本の貸出し・返却の補助（業間休み・昼休み輪番制）

(月ごとの取組)

- ・しおりコンテスト（6月）

1～6年生まで全校でしおりを作成する活動を行った。図書委員会で作品を集め、低・中・高学年から各3点の代表作品を決定、色画用紙でしおりを作成し、児童に配付した（右は児童の作品）。



・全校ビブリオバトル（10月）

本校では、全校朝会の中に委員会紹介の時間を設けている。図書委員会ではその時間を活用して「全校ビブリオバトル」を行った。委員会から代表者3名がそれぞれ全校に向け、本の紹介をした。学級に戻り、委員会で用意した投票用紙を用いて個々に投票、学校図書館にはビブリオバトルの本と結果を知らせるブースを設けた。

・紙芝居読み聞かせ会（11月）

11月後半の2週間、昼休みを利用して図書委員の児童が紙芝居の読み聞かせを行った。低・中高学年向けの日をそれぞれ設定し、分担をして取り組んだ。スタンプカードを用意して、3個貯まった児童には特別貸出し券などをプレゼントした。

・図書年賀状（1月）



1月には、児童が本を紹介する年賀状を作成し、交換し合う活動を行った。年賀状用紙とポスト、各学級の郵便受けの準備を図書委員会が行い、縦割りグループのペア児童にあてた年賀状を図書館に設置したポストに投函し、図書委員が各学級の郵便受けに届けた。その後、1人15枚までを限度として、校内児童で自由に年賀状のやり取りを行った。年賀状にはお年玉くじをつけ、当選番号の記載された年賀状をもらった児童には、特別貸出し券などを贈った。

○ 縦割りグループによる読み聞かせ

本校は小規模校であることを生かし、年間を通して縦割りグループ（美北グループ）の活動を行っている。その中に、朝の読み聞かせ活動がある。各学年担当の日までに、本を決め、読む練習を行う。当日はそれぞれの活動場所に分かれて読み聞かせを行う。余った時間は6年生を中心に本のクイズを出したり、感想を伝え合ったりしている。本年度は、1年生に向けて、6年生が読んだ本をはがき新聞でも紹介する活動を行った。



○ 図書館司書による課題図書ブックトーク

学校司書は、各学級に配当されている学校図書館の割り当て時間に、ブックトークや読み聞かせを行っている。特に、夏休み前には、それぞれの課題図書について、学級ごとにブックトークを行っている。そのことで、児童は、内容を理解した上で選書し、夏休みの課題にあたることができる。

（3）学習等に関する支援

○ 教科指導に関すること

本校は、25年以上続く社会科の研究校であるため、調べ学習で図書館の本を利用する機会が大変多い。学校司書は、図書館に各学年専用のブックトラックを用意し、

単元によって調べ学習で必要になる本を事前に用意している。ブックトラックを使用することで、教室内で教科書や資料集、また、タブレットなどと併用した調べ学習をすぐに行うことができる。

実践例① 社会 第6学年 「貴族の暮らし」

前単元で聖徳太子の政治や大仏づくりを学んだ児童は、藤原道長の歌や貴族のくらしの様子を教科書で知ると、「なんだか幸せそうだな。」とつぶやいた。そこで、「平安貴族のくらしは本当にしあわせだったのか？」という問いを立て、それぞれが予想をした。しかし、教科書や資料集では当時のくらしを知る手掛かりが少なく、急遽ブックトラックの用意をしてもらった。児童は教科書や資料集にはない貴族の給与や女性の身だしなみ、トイレのことなどを本から探し出し、それぞれが自分ならではの根拠を見付け出して、意見を話し合うことができた。

実践例② 国語 第6学年 「1年生にむけて物語を書こう」

題名	著者	出版社
1. 魔法の国
2. 魔法の国
3. 魔法の国
4. 魔法の国
5. 魔法の国
6. 魔法の国
7. 魔法の国
8. 魔法の国
9. 魔法の国
10. 魔法の国
11. 魔法の国
12. 魔法の国
13. 魔法の国
14. 魔法の国
15. 魔法の国
16. 魔法の国
17. 魔法の国
18. 魔法の国
19. 魔法の国
20. 魔法の国
21. 魔法の国
22. 魔法の国
23. 魔法の国
24. 魔法の国
25. 魔法の国
26. 魔法の国
27. 魔法の国
28. 魔法の国
29. 魔法の国
30. 魔法の国

前単元「きつねの窓」で児童は、この物語文が現実と非現実の入口と出口がはっきりとしたファンタジー作品であることを学んだ。それを受け本単元では、「1年生に伝えたいこと、テーマをはっきりとさせて、そのことが伝わる物語を書くこと」をめあてとした。しかし、読書習慣のない児童や書くことに苦手意識のある児童にとっては書き出すことが難しい様子であった。そこで、学校司書に、ファンタジー作品をブックトラックに集めてもらうことと、ファンタジー作品のブックトークをお願いした。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 児童主体の読書推進活動の充実

図書委員による年間を通した活動は、全校児童を対象とした取組が多く、学校全体の読書意欲の向上につながった。また、異学年を意識した取組を多く行うことは、他者を意識した読書活動を成立させ、本の世界を広めることができた。

イ 本を利用した各教科における調べ学習の充実

学校図書館に来館するばかりでなく、ブックトラックを利用して調べ学習に適した本を学級に設置することで、児童が授業中、調べたいときにいつでも本を手にとれる環境ができたことは、主体的・対話的で深い学びを実現する手立ての一つに成り得る、と感じた。

ウ 学級担任と学校司書の連携

図書委員会などの特別活動ばかりでなく、日々の授業においても、学校司書と連携しながら実践することができ、学校司書の持つ専門的な知識を生かすことができた。

(2) 課題

ア 柔軟な学校図書館活用の必要性

本校は社会科研究校であるため、社会科の調べ学習における学校図書館利用は充実しているが、他教科、特に技能教科等での図書館の利用はまだまだ開発途上である。本の持つ可能性をもっと広げていく必要がある。

イ 学級担任と学校司書のさらなる連携

図書委員会などの特別活動や調べ学習ばかりでなく、日々の授業においてもさらに学校司書と学級担任が連携しながら授業実践することで、学校司書の持つ専門的な知識が生かされる。これからもコミュニケーションを密にしていける必要がある。

第6学年2組 国語科学習指導案（本時案）

令和元年11月8日（金） 第6校時 6年2組教室 指導者 坪田和晃

1 単元名 「物語の世界を想像して書こう（一年生に向けて物語を書こう）」

2 本時の目標（1／5時間）

- ・ 日常の世界と不思議の世界がはっきりとしたファンタジーの物語に関心を持ち、進んで物語の創作をしようとする。

3 展開

時	学習活動と内容	指導上の留意点
5	1 『きつねの窓』の学習を振り返り、不思議の世界への入口と出口や主人公の変化について話し合う。 ・道を一本曲がると青の世界になってしまうんだよね。 ・一面のききょう畑になったよ。 ・出口は、習慣で手を洗ってしまった場面だね。 ・主人公は独りぼっちなきつねに共感していたね。 ・銃まであげてしまって。	○挿絵などを用意して、物語を想起しやすくする。
5	2 日常世界と不思議の世界で構成された物語を「ファンタジー」ということを知る。 ・それなら、漫画にもあるよ。 ・〇〇もそうじゃないかな	○不思議の世界だけの物語をメルヘン、すべてが日常生活の物語を生活童話ということも併せておさえる。
10	3 図書館司書の「ファンタジー」をテーマとしたブックトークを聴く。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 図書館の先生のお話をもとに、ファンタジーの物語を創作しよう。 </div>		
15	4 ブックトークを受け、自分でも簡単な物語を創作する。 ・どんな入口にしようかな。 ・主人公は自分がいいかな。 ・もっと読んでみたいな。	○テーブルにファンタジーの物語を用意しておき、自由にみて参考にするように、指導する。
10	5 創作した作品を読み合う。 ・私も〇〇さんのように書いてみたいな。 ・もっと作ってみたいな	○発表の難しい児童の作品は授業者が代読する。